

# 【北海道釧路湖陵高等学校】学際領域学科（設置（令和6年度））

## 【設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

- 現代的な諸課題に対応するため、大学等で構成するコンソーシアムの支援のもと、学際的な分野に関する学校設定科目「KQ(Koryo Quest) I～Ⅲ」と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結び付けた探究的な学習を重視した教育活動を展開する。
- 外部人材を積極的に活用し、課題解決に必要な資質・能力の伸長に資する教科等横断的な学習を推進することで、高校卒業後の高等教育機関での学びや、実社会に関わる課題の解決に対応したこれからの普通科の教育のモデルとしての役割を果たす。

## 【成果】

- 校内、地域内における新学科への理解の促進
- 新学科通信の発行、ポスターの作成
- 道外の同一事業実施高校との連携体制の構築
- 視察研修、コーディネーター研修を通じたネットワークの構築
- 学校教設定教科・科目への期待
- 探究活動の理論や技法の習得
- 様々な学問領域を横断した新しい教科・科目の教育プログラム骨子の完成

【令和5年度の目標】へ

## 【取組状況】

- ①学校教育と地域に精通した人材の確保
- ②全国50以上のコンソーシアムメンバーの確保
- ③同事業実施校を訪問、情報交換の実施と連携体制の構築
- ④令和6年度新学科設置に向けて協議中
- ⑤R5から新学科に係る教育課程の一部を先行実施
- ⑥学校設定教科「KQ」における体系的なプログラムの作成
- ⑦専門家による評価及び次年度に向けた取組への指導・助言
- ⑧ニュージーランド及び東南アジア6カ国とオンライン交流
- ⑨事業2年目に向けた課題の明確化、事業内容の充実を図る評価の実施

## 【課題】

- 国外の高校、大学等との連携
- 関係機関との連携体制の更なる強化
- 事業成果の適切な評価の実施
- 長期的な視点での事業成果の正確な把握
- コンソーシアムと学校の共通理解・関係構築
- コンソーシアムを効果的に活用するノウハウの蓄積
- 事業終了後（令和7年度以降）の自走できる校内体制構築
- 事業終了後の持続可能な体制づくり

教育プログラムの作成

教育プログラム実施時の連携

コーディネーター

## 【令和4年度の目標】

- ①コーディネーターの適切な人材配置と業務内容の明確化
- ②関係機関とのコンソーシアムの構築
- ③先進校視察による情報共有と連携体制の構築
- ④新学科に係るスクール・ポリシーの策定
- ⑤新学科の設置に向けた教育課程の検討
- ⑥新学科の設置に向けた総合的な探究の時間及び学校設定教科に関する科目の内容の精査
- ⑦運営指導委員会（年2回）の開催
- ⑧海外の高校とのオンライン交流
- ⑨次年度に向け、事業1年目の成果検証、評価

## 【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

### コンソーシアム「チーム湖陵」の設置

#### プロモーター

釧路市内コンソーシアムメンバーで構成

支援

### 湖陵高校



支援

#### サポーター

釧路市外コンソーシアムメンバーで構成

コーディネーターを中心に、生徒の探究活動のテーマに対応する多種多様な大学、国の機関、自治体、事業所、研究機関等とのコンソーシアムを構築(プロモーター約25団体、サポーター約30団体が参加)

# 【北海道大樹高等学校】地域社会に関する学科（設置（予定令和6年度））

## 【目的】

- 現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組むことにより、地域共創による共生社会の実現とそれを支える人材に求められる資質・能力を育成すること
- 探究的な学習に地域教育力を結び付けたカリキュラム及び教育方法の開発に取り組むことにより、普通科を含めた他学科における「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

## 【特色・魅力ある教育】

大樹スタンダード

大樹学PLUS

大樹高STEAM

ユニバーサルデザイン（個別最適化された学び）及びダイバーシティとインクルーシブ（協働的な学び）による授業改善

地域探究学習と台湾大樹区国際交流を核とした多様性・共生社会の理解

室蘭工業大学との連携や町内関係企業との連携によるSTEAM教育の推進

## 【令和4年度の目標】

- (1) タブレット1人1台の環境を活かし、学習者を主体とした個別最適化学習推進
- (2) キャリアパスポートを活かし、校種間の連携強化
- (3) 1学年のインターンシップ、2学年の見学旅行について、探究学習の手法導入
- (4) 3学年の地域探究学習プログラムについて主体性の育成を主眼に改善
- (5) 室蘭工業大学連携授業を年間5回10時間実施
- (6) 出前授業を核とした教科等横断的連携授業実施
- (7) 新学校設定教科・科目のシラバス作成・試行準備
- (8) モデルロケットの打上等実践的学習推進

## 【取組状況】

- (1) 町支援によるタブレット全校1人1台の環境実現
- (2) 高校入学後のキャリアパスポート整備
- (3) インターンシップ、見学旅行成果発表会実施
- (4) 探究活動成果発表会実施・地域町づくりへ提言
- (5) 町関係者と共に先進校視察を実施、情報を共有
- (6) 室蘭工業大学連携授業を年間4回8時間実施
- (7) コンソーシアムと協議し、新学校設定教科・科目次年度試行へ向けてシラバス・授業計画を作成
- (8) 地域コーディネーターの役割を整理
- (9) 運営指導委員会（年2回）開催、1年目の取組を評価・検証

## 【成果】

- (1) 授業満足度の高評価
- (2) 探究活動の生徒満足度高評価
- (3) 探究報告会に関する地域住民からの高評価
- (4) 地域と連携したキャリア教育の充実と進路実現の達成
- (5) 室蘭工業大学との具体的な連携の実現
- (6) 各教科における共生社会への理解を深める取組が進展
- (7) 地域と協働した学習活動の充実

## 【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

大樹町学校運営協議会

大樹高校サポート  
コンソーシアム

大樹高校

地域コーディネーター

大樹町、大樹町教育委員会、大樹町関係企業・団体、地域おこし協力隊、室蘭工業大学

コーディネーターの役割

- 探究的な学習等の企画・立案
- 生徒募集、広報活動
- 関係機関との連絡・調整

コンソーシアムの役割

- 探究的な学習等への協力
- 高校の教育活動への指導助言

## 【課題】

- (1) より主体性を引き出すための探究学習改善と観点別評価方法の研究
- (2) 普通科新学科に関する理解を深めるための情報発信と地域への丁寧な説明
- (3) 大樹高校の特色・魅力を伝える広報活動の充実
- (4) 大学教員と高校教員との打ち合わせ時間確保
- (5) 新学校設定教科・科目の試行とシラバス完成
- (6) 地域コーディネーターも含めた学校・地域間の連携調整機関を整備
- (7) 町内小中学校との「大樹学」連携強化



## 【岩手県立大槌高等学校】地域社会学科（設置 令和6年度予定）

## 事業構想

「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」を実現し、  
「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う  
魅力的な学びの環境を地域と共に創る

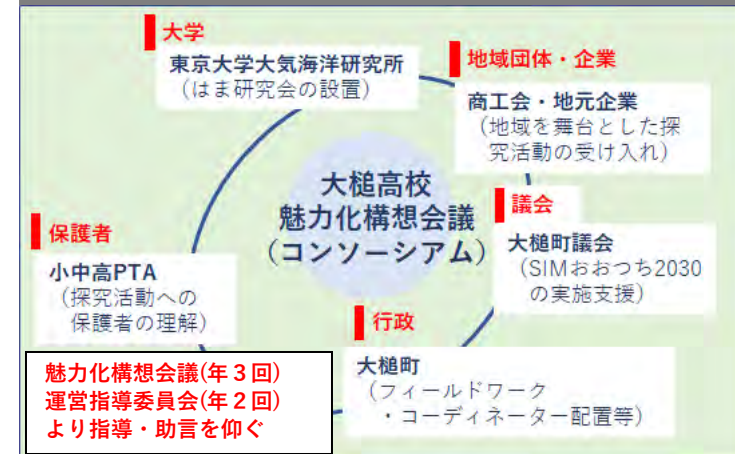
## 事業目的

- ・多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現
- ・復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現

特色・魅力ある  
教育の概要

- ①生徒自らが選択・調整できる学び
- ②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる
- ③放課後等の学校外に広がる探究的な学び
- ④個別最適なりメディア教育の実践

## 関係機関との連携・協働体制の構築方法



## 令和4年度の目標

## ①新学科開設に向けて校内体制の整備

ア) 学び続けることの意義を実感でき

るカリキュラム開発

イ) ICTを活用した教育方法の検討

ウ) 地域に向けた高等学校の取組につ

いての周知

## ②地域を題材とした探究の実践と充実

## ③先進校事例の収集と情報交換の実施

## ④コーディネーターの有機的活用

## 取組状況

①全教員からなる  
3つのワーキンググループ(WG)設置

## ②地域を題材とした探究の実践と充実

・「三陸みらい探究」、学校設定教科の  
「地域みらい学」の深化を図った。

## ③先進校事例の収集と情報交換の実施

・全国の12校と交流を深めた。

## ④コーディネーターの有機的活用

・探究の企画、会議運営等あらゆる事業の  
推進役として、地域協働を推し進めた。

## 成果と課題

## ①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置

成果：全教員が事業に主体的に関わる体制づくりの構築（全体）  
生徒・保護者・地域の声を反映させたカリキュラムの検討（カリキュラム）  
改革の方向性の明確化（カリキュラム）

ICTを活用した研究授業の実施、校務の効率化（DX）  
探究発表会や取組展示等を通して、地域への活動周知（周知・広報）

課題：教員異動に伴う教員間の温度差を埋めるための円滑な取組の継承（全体）

カリキュラム完成に向けた関係機関との調整（カリキュラム）

実証振り返りと個別最適化を目指す授業の提案（DX）

中学生や保護者が新学科に関する理解を深め、魅力的なものと感じられるような周知方法の検討（周知・広報）

## ②地域を題材とした探究の実践と充実

成果：地域社会に暮らす人々と協働することで、自らの人生を切り拓こうとする生徒の増加  
課題：地域課題がなぜ生じているかその背景について考える

## ③先進校事例の収集と情報交換の実施

成果：多くの学校と探究活動、教育課程、地域連携等について意見交換を行い、本校の教育活動にいかせた

課題：他校交流をさらに深め、先進校研究の進展

## ④コーディネーターの有機的活用

成果：探究カリキュラムの充実、地域と学校を繋ぐ役割を担った

課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネータースキルの教員への伝達

## ⑤高校魅力化評価システムの調査結果

成果：社会性に関わる項目が県平均を大きく上回り、魅力的な学びの環境を地域と共に創ると  
いう事業構想の具現化を確認

課題：詳細を検証し、今後にかす

# 【専修大学北上高等学校】普通科ディープラーニングコース・アクティブラーニングコース（設置予定2025年度）

## ①本校の特徴～3つの学びの実現に向けた普通科コース再編～

### 3つの学びの実現～未来を創るカへ～

#### アクティブ ラーニング

学ぶことそのものを楽しみ  
豊かな出会いの中で  
前向きにチャレンジする学び

#### ディープ ラーニング

自らが課題の本質を見出し、  
解決に向けた具体的な行動に  
つながる学び

#### ダイバーシティ ラーニング

多様な視点・それぞれの  
ちがいを大切にしたい学び

2022年度入学生から 1年生 2年生 3年生



本校は2022年度より、普通科をディープラーニングコース、アクティブラーニングコースの2コース制にコース改編します。

本校の改編のポイントは、生徒ひとりひとりの「未来を創る力」を育むことです。

そのためには、①自分の学びたいことを自律的に深められる ②学びたいことと地域・世界がつながり学ぶことの意味が見える ことが大切であると考えます。そのため、1年次から自走を前提とした取り組みを展開します。

## ②本事業で検証する仮説

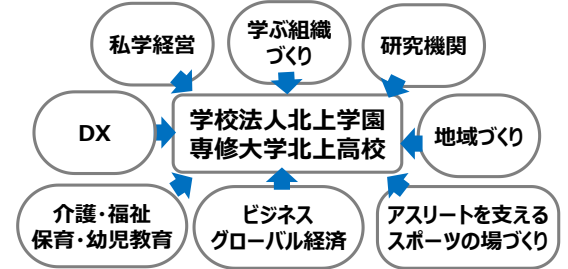
仮説1: スクールポリシーで定義した「8つの力」と「教科の学び」のつながりを生徒・教員間で共有・意識する仕組みを創ることで、「なぜ学ぶか」が明確化され、各教科・科目がより探究的になり、主体的で対話的な深い学びが実現する

仮説2: 普通科において「自らの学びを深め・それを社会につなげる時間」としての総合的な学習の時間を重点設置することで、一人ひとりの学びが深まり、結果としてそれぞれの自分らしい進路の実現と持続的な研究の実践につながる

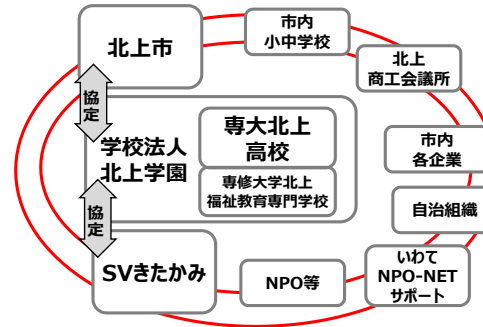
仮説3: 普通科において学校の特性を活かした「知を社会で活かす」地域科目群を設定することにより、より主体的で深い学びが実現する

## ③推進体制 「探究」をキーワードにしたカリキュラム構築体制

大学や専門職など、それぞれの分野の専門家へ運営指導委員を依頼。5つの専攻のメンターとなり、担当教員を伴走しながらカリキュラムを構築。



## 「進化するコンソーシアム」



「SDGs実現に向けた人材育成推進に關する連携協定」を締結している北上市とともに直接的な事業に関連する皆さまと連携し、取り組みを進めます。今年度のカリキュラム設計をもとに、2023年は地域で活躍されている方を講師に迎え、より実践的な学びを実現するとともに、学びのネットワークをさらに広げていきます。

## ④2022年度の取り組みから2023年度へ

<今年度の取り組み>

取り組み①: 高校職員研修における対話の場・学びの場づくり

今年度、11回の全体教員研修を実施。「なぜ、学ぶのか」「どう学ぶのか」を教員と生徒が共有し、自ら学びを進めることができる環境構築をテーマにシラバス改善、評価、授業改善、プレゼンテーション等を学びあう場をつくった。

取り組み②: DLコースPBL専攻およびALコース各専攻におけるカリキュラム開発

5つの専攻がメンターの伴走のもと、社会と学びをつなげるカリキュラムを開発。次年度以降、地域で活躍する外部人材と連携しながら、実践的な学びが始まる。

取り組み③: DXによる学びの深化と負担軽減（※高校独自）

学校独自のプログラムとして業務における課題の洗い出しおよび1人1台端末での学びの推進に向けた環境づくりを推進。システムの統合や、授業補助システムの導入など、業務負担軽減と授業改善につながる環境づくりを実施。

<次年度に向けて>

2022年度はカリキュラム開発および推進体制整備（環境構築）が主たる取り組みである。これをもとに2023年度は5つの専攻での実践的な学びがスタートする。また2023年8月の新校舎利用開始にあわせてデジタル環境も一新されることにより、新しい学びが進められる環境が生まれる。次年度は今年度設計したこれらの取り組みを評価・改善しながらカリキュラムの質を高めるとともにネットワークを広げていく。



【浜松学芸高等学校】地域社会学科 「探究創造科」（設置（令和6年度予定））

地域での学びを活かし「地域に必要とされる高校づくり」

探究創造科の設置目的

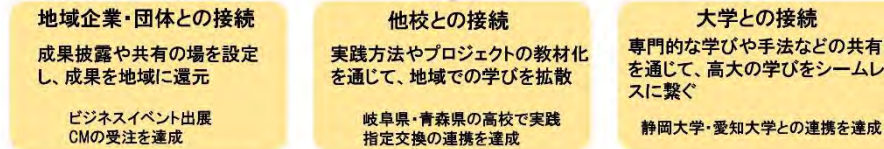
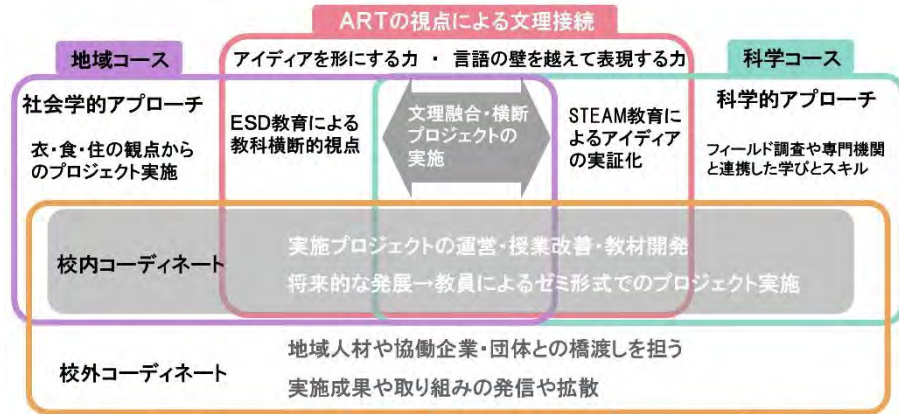
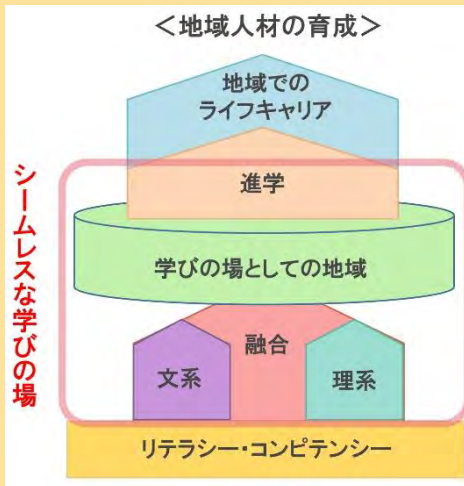
- ①地域での学びを、既存の地域創造・科学創造の両コースを融合させた教科横断的・系統的な学びのカリキュラムとして再構築
- ②ARTをアイデアを形にする力ととらえ、成果を地域に還元
- ③プロジェクト型学習をベースに地域企業や専門機関と連携したプロジェクトを実施
- ④実施プロジェクトを教材としてパッケージ化し、他校との協働で拡散に取り組む

目標

- ・地域創造と科学創造をベースとした新学科の設立→R6年度開始予定
- ・文理融合プロジェクトの実施とPBLの系統的カリキュラム化
- ・ARTの力を重視して「アイデアを形にする力」「STEAM教育」に力点
- ・PBLの先進校としてインフルエンサーとなる

状況

- ①小プロジェクトを実施し、教材としての内容や時間数の検証を通してカリキュラムを修正
- ②文理融合プロジェクトを1年生・2年生でそれぞれ先行実施し、プロジェクトとしての有効性を検証
- ③国内外に向けた成果報告や視察の受け入れ（成果報告8回・視察5校）
- ④教材パッケージ化に向けた他校との連携（恵那南高校・青森中央高校・塔南高校の3校と実施）
- ⑤大学との連携（愛知大学・嵯峨美術大学）
- ⑥生徒募集活動（新学科体験授業15件／学校説明26件）



成果 新学科における学びのサイクル・資質を明確化



- ＜求める資質＞  
3年間を通して正解のない問いに挑む上で必要なリテラシーとコンピテンシー
- リテラシー  
情報収集力・情報分析力・課題発見力  
構想力・表現力・実行力
  - コンピテンシー  
対人基礎力【親和力・協働力・統率力】  
対自己基礎力【感情制御力・自信創出力・行動持続力】  
対課題基礎力【課題発見力・計画立案力・実践力】

課題

- ・コーディネーター業務の分散化
- ・カリキュラムに取り入れる新しいコンテンツの開拓
- ・文理融合の実践検証不足
- ・教科横断的な普通教科の改善

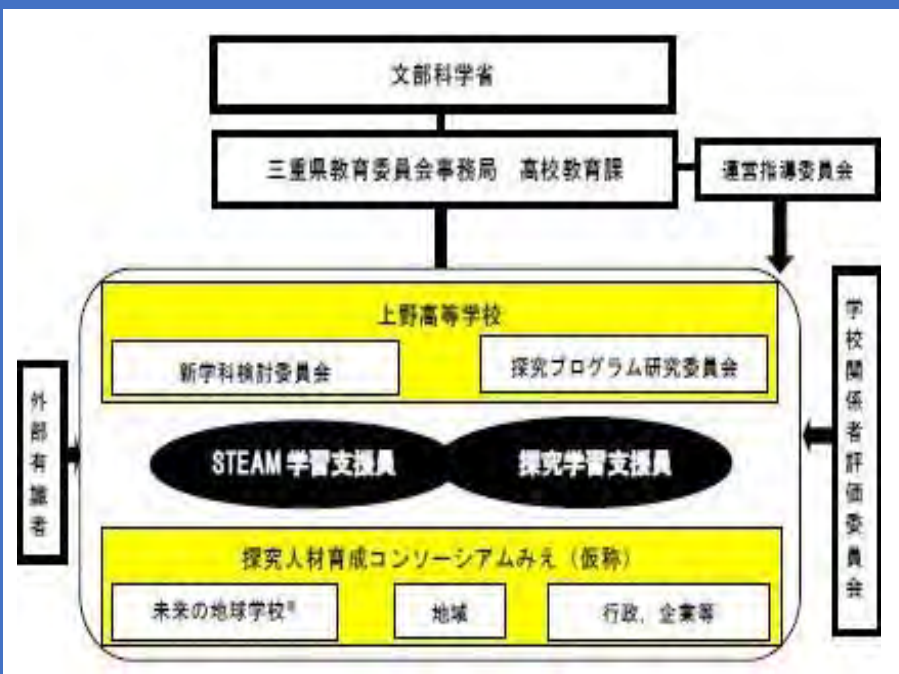
【三重県立上野高等学校】学際領域学科（令和6年度設置予定）

1 学際領域学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

- 伊賀地域は、古くからの伝統・文化が残るものの、少子高齢化が進んでおり、地域の将来そのものが危惧されている。
- 上野高校には地域の活性化だけでなく、人材育成、学力保障等、多くの期待が寄せられている。
- 学際領域学科では、地域の期待を踏まえ、「伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける人材」の育成をめざす。
- 伊賀の特性をいかした「忍者×STEAM」などのSTEAM学習（教科横断的な学び）や、国際交流プログラム等の学習活動を行う。



2 関係機関との連携・協働体制の構築方法



3 令和4年度の実行状況と成果

「社会の形成者としての自覚と責任を持ち、他者と協働しながら、解決に向けて主体的に行動する力」の育成

1 カリキュラム及び教育方法の開発

- 探究を核とした教育課程の実現
  - 新学科設置検討委員会を設置し、教育課程や探究プログラム等についての検討
- 文理が融合した新たな学びの実現
  - 地域の特色に応じたSTEAMリテラシー育成プログラム（忍者STEAM等）の開発
  - SDGsに関する学習プログラムの検討
- 地域に根ざした教育の実現
  - 「地域に関連したテーマ」に係るフィールドワーク等を含むミニ課題研究の検討

2 探究共創ネットワークの構築

- 外部の教育力の活用
  - コンソーシアムの大学教授等を招聘した授業を実施
- オンラインを活用した学びの充実
  - 海外の学生等と交流する国際交流プログラムを実施
- 学校を越えた高校生等との協働
  - 県事業「みえ探究フォーラム」での発表、交流

4 令和4年度の課題

探究人材育成コンソーシアムみえ



- 持続可能なコンソーシアムの構築
- 各校内委員会を活用した協議
- 分野横断型授業の研究や探究プログラムの開発



## 【京都市立開建高等学校】ルミノベーション科〈地域社会学科〉（令和5年度）

## 設置の目的

- ◆学びのモチベーションを高める探究的な学びを重視したカリキュラムの構築
- ◆京都の都市特性を最大限に活かし、未来を創造する力を育む教育活動の確立

## 特色・魅力ある教育の概要

## (1) 授業が変わる

- ◆未知のことや課題に対して生徒が自分で問いを立て、解決の方法を見出す探究的な学びを重視し、生徒の「学びたい」という意欲をかき立てる授業を行う。また、仲間や社会との対話・協働を通じた学びも重視し、多様性を大切にすることを涵養する。
- ◆1つのラーニングポッド（L-pod）での活動は複数の教員で指導し、生徒を多面的にサポートし、生徒一人ひとりに応じた学びを支援する。
- ◆机を自由に配置できる普通教室4つ分の広い学び空間〈L-pod〉を新校舎の特徴的な設備として整備し、教室のサイズ・形態を自在に変化・転換し、授業の目的や活動内容、また生徒の学びやすさによって、多様な学習活動を展開する。

## (2) 魅力あふれる京都をフィールドに実践する探究活動

寺社仏閣や伝統文化、企業のまち、大学のまちなどの都市特性を存分に発揮し、幅広い機関と連携して、生徒が京都で学ぶ価値を享受できるよう、多様で奥深い京都の都市特性に触れるフィールドワークや、課題の発見と解決、京都のさらなる魅力発信にも寄与する探究を行う科目を設定し、3年間を通して生徒が探究活動を行う。

## (3) 生徒が夢中になれる課外活動

生徒が自由に活動を企画できる「New HORIZON Day」、地域や大学等と連携した活動プログラムなど、生徒自身がやりたいことに主体的に挑戦できる課外活動の機会を地域協働コーディネーターと協力し創出する。

## 関係機関との連携・協働体制の構築方法



## 令和4年度の目標

- ◆学びのモチベーションを高める授業の実践に向けて、開建高校での学び（問いから始まる学び、対話・協働での学び、個に応じた学び）や、L-podを活用した複数の教員によって生徒を支援する授業を構築する。
- ◆未来を創造する力の育成に向けて、地域や企業、大学等と連携して、京都をフィールドに生徒自身が課題を発見し、解決に向けて取り組む探究活動を構築する。
- ◆生徒自身がやりたいことに主体的に挑戦できる課外活動の実施に向けた、支援体制を構築する。

## 令和4年度の実行状況

- ◆「自ら考え自ら学ぶ力」の育成を目指した教育課程の構築
- ◆教職員研修や授業研究週間の実施
- ◆地域組織と連携した「未来デザインプログラム」の実施
- ◆「New Horizon Day」や「KAIKENプロジェクト」など、生徒が夢中になれる課外活動の実施
- ◆教育活動を支援するコーディネーターの設置に向けた準備
- ◆指導・助言や活動支援をいただく運営指導委員会の設置・実施
- ◆先進校の視察

## 成果と課題

- ◆開建高校での学び（「問いから始まる学び」「対話・協働での学び」「個に応じたまなび」）について全教職員で共通認識を持ち、問いづくりに取り組んだ。実践を通して、生徒に自ら考え自ら学ぶ習慣や学びの楽しさを感じさせられているかの検証をし、改善を進める。
- ◆生徒が自ら選んだ企業・大学で、より良い社会の創造に向けて挑戦していることや、個人の思いを知ること、自らの将来やキャリア展望と関連させて自身と社会との関わりを考えることができた。生徒の興味・関心を広げ、学校での学びと社会とのつながりを実感させる振り返りやフィードバックの実践に今後力を入れる。
- ◆校章デザインや校歌歌詞作成等のプロジェクトに興味・関心がある生徒が積極的に参加し、学校での学びの成果を実感でき、貢献意識につなげることができた。地域で活躍する企業等の方が教育活動に参画することの意義を学校全体で感じることができた。
- ◆「New HORIZON Day」を実施し、生徒が主体となって企画・運営することができた。地域や社会と関わる企画や貢献につながる企画を生み出す仕掛けづくりが課題である。

【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・地域科学探究科（令和6年度設置予定）

● 「地域科学探究科」（地域社会学科）

育成する  
資質・能力

- ・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質・能力
- ・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力
- ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力

【特色ある教育活動】

- ・地域を対象とした探究活動の展開、論文作成・発表
- ・英語を含めた表現力を活用した地球規模の課題解決へのアプローチ

令和4年度の成果

総合的な探究の時間の開発

【主な取組】

- ・「丹BAL I」（第1学年）  
新たなテキストや講演会等による探究の手法の習得
- ・「丹BAL II」（第2学年）  
前半 地域活性化策のまとめ  
後半 台湾（沖縄）研究  
（防災、観光、平和等の探究活動）
- ・「地域課題から世界を考える日」の開催  
第1・第2学年全生徒の発表会

【課題】

- ・関係機関等との連携
- ・探究活動と各教科の授業との連携

学校設定教科・科目の開発

【主な取組】

- ・学校設定科目「グローバル」の実践  
第3学年選択  
台湾とのオンラインによる交流  
テーマ設定と個人研究の実施  
英語によるプレゼンテーション
  - ・他の学校設定科目の設定に向けた協議
- 【課題】
- ・研究成果の引継ぎ、担当外の教員との年間指導計画等の共通理解（探究活動との連携）
  - ・学校設定科目「ポスター英語」「メディアイングリッシュ」の内容検討

成果普及・情報発信

【主な取組】

- ・学校ホームページでの情報発信
  - ・他校との発表会、中学校での発表会への参加
  - ・校内発表会や地域イベント（ランタンフェス等）の新聞掲載
  - ・報告書の作成、配付
- 【課題】
- ・大学等が実施する発表会、研究会等への参加
  - ・オープン・ハイスクールや学校説明会等での中学生への説明

教員の意識・資質向上

【主な取組】

- ・教職員によるディスカッション
  - ・探究的な学習に関する意識・実施状況調査の実施  
⇒意識、課題の把握
- 【課題】
- ・探究活動に対する共通理解及び指導技術の向上
  - ・コーディネーター、関係機関と連携した探究活動の実施
  - ・探究活動と連携した教科指導の試行

コーディネーターの取組

【主な取組】

- ・コーディネーターによる、校内と外部との調整
  - ・外部との連携による、新たな探究活動の提案
  - ・生徒の資質・能力を評価するルーブリックの開発
  - ・教職員のディスカッションの開催
  - ・インプットからアウトカムまでのロジックモデルの開発
- 【課題】
- ・ルーブリック、ロジックモデルの設定
  - ・校内外との連携体制の構築

関係機関等との連携・協力体制

【主な取組】

- ・探究活動等への外部講師の招聘
  - ・運営指導委員会の開催  
⇒取組に対する助言、指摘等
  - ・丹波市役所、丹波市教育委員会等との連携
- 【課題】
- ・コンソーシアムの構築に向けた取組



# 【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科（令和6年度設置予定）

## 学科設置の目的・特色

## 広がる学び、多様な未来

予測不能な今後の社会において、多彩な力を発揮し、新たな価値を創造しながら活躍できる人を育成することを目標とする。その目標を実現させるため、**校外機関とも連携**をとりつつ、生徒の学びのフィールドを校外に広げ、**学科独自の開講科目**を軸に、多様な認識や高次の認識を育てながら、**学際的に取り組む探究活動**を展開することで、生徒の知的好奇心を高めるとともに、主体性や協働性、課題解決能力、言語表現スキルの伸長をはかる。

### 校外機関との連携

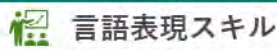
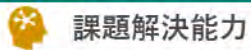
コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

### 学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

### 学際的に取り組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた探究活動や、地域に関する探究活動に学際的に取り組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践



## 育てたい生徒像

地域や国際社会のありようをしっかり目に向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒

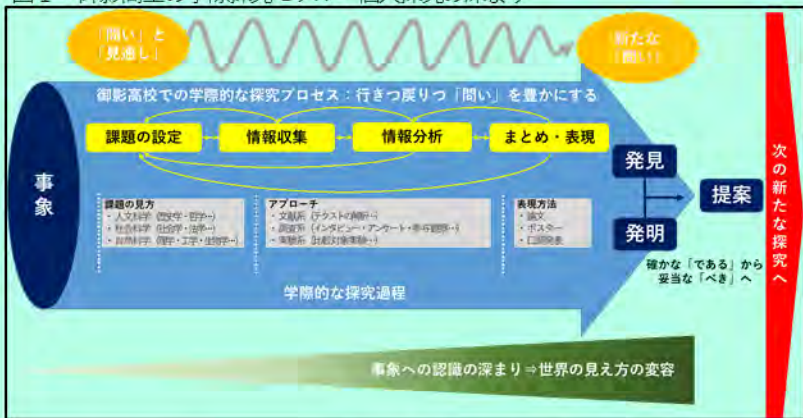
人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒

地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取り組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒

## 令和4年度の取組・成果

### カリキュラム開発

図1：御影高生の学際探究モデル：個人探究の深まり



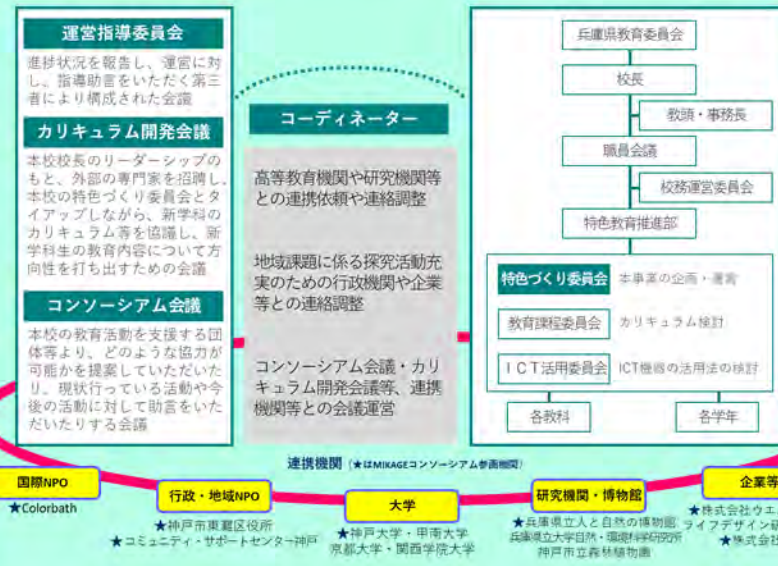
7回開催したカリキュラム開発会議で、2つのモデル図を開発・共有し、体系的な探究カリキュラムを検討  
→令和5年度より先行実施

図2：多層的な探究コミュニティのモデル



### 関係機関との連携・協働体制の構築

2名のコーディネーターを中心に、協働体制を構築



### 学びの先行実施

学年を越えた探究発表会  
県外高校との探究発表会  
11回のクリエイション講座等



## 令和5年度の課題

## 学科開設準備最終年度

### カリキュラム

- 先行実施の成果検証
- 新たなカリキュラムの開発

### 関係機関との連携強化

- クリエイション講座の拡充
- 連携協定の締結

### 広報活動の充実

- 中学生や保護者への周知
- 地域内外に向けた取組の発信

### 校内体制の整備

- 学科準備委員会の設置
- 新たなカリキュラムの実践準備

### 入学選抜方法の検討

- 最適な方法の検討
- 入学選抜方法の周知

令和6年度  
学科開設





# 和歌山県立新宮高等学校 学際領域学科（令和6年度）

## [学際領域学科設置の目的]

学際領域学科設置を通して

現代社会はSociety5.0の到来など変化が激しく、予測不能で多様な課題が生じている。課題解決のためには、①さまざまな領域の知識や技能、②多くの情報を統合しながら、課題解決に結びつけていく力、③主体的にまた他者と協働して課題解決に向かえる力が必要。



育成する  
資質  
・  
能力

- ①分野にとらわれない幅広い知識、豊富な技能を身に付け、活用できる力。情報活用力。
- ②創造的・批判的思考力
- ③主体性・協働性・市民性



育成する  
人物  
像

- ・物事を多面的・包括的に捉え、人や自然・文化を大切にできる人物
- ・地元地域や国内外でイノベーターとして活躍できる人物

## [特色・魅力ある教育の概要]

- ①最先端の幅広い知識に触れたり、ホンモノを体験したりする機会を増やす。
- ②課題解決の知識や技能を磨く。
- ③①・②をふまえ、考えや提案を発信・発表することを推奨し、学びが実社会とつながる経験を大切にする。
- ④分野や教科の枠を超えた学びを実現する。



- ・令和5年度より、学校設定教科・科目「くまの学彩」を開設する。
- ・総合的な探究の時間の取組を充実させる。
- ・探究型学習や分野・教科横断的な学びの機会を充実させる。

## 令和4年度の目標

- ①学際的な学びを実現できるカリキュラムの開発を行う。
- ②分野・教科横断的な学びの取り入れ方を研究する。
- ③学校設定教科・科目を検討する。
- ④総合的な探究の時間の取組を深化させる。
- ⑤コーディネーターと協力して、地元企業や地域住民、大学、研究機関等との連携を強め、生徒が体験できる機会を増やす。
- ⑥発信力を養う。

## 取組状況

- ①②③④⑤⑥
  - ・校内にキャリア研究部とビジョン委員会を設け、会議等を継続しながらカリキュラム開発を行っている。
  - ・運営指導委員会を3回実施し、助言・指導を受けた。
  - ・令和5年度より、学校設定教科・科目「くまの学彩」の設置・実施を決め、内容や方法を検討している。
  - ・総合的な探究の時間の見直しや「くまの学彩」の実施を見据えて、試行的な取組を実施している。
  - ・教科横断型授業の研究授業を実施している。
- ⑤
  - ・コーディネーターとの協働の場を増やしている。
- ②④⑥
  - ・生徒に主体的な探究活動を促す機会を増やしている。

## 関連機関との連携・協働体制の構築方法

企画や取組の方向性を担当教職員とコーディネーターで共有し、運営指導委員の方々やコンソーシアムとして関わっていただいている方々を通じて、連携先を広げるとともに、講演やフィールドワークを重ねる中で、協働体制の構築を図っている。

## 成果と課題

成果

- ・これまでの取組を、分野・教科横断等、学際的な学びという観点から捉え直すことができた。
- ・教科横断型授業や試行的な取組を実施する中で、学際的な学びへの認識を深め、「くまの学彩」の実施に向けて動き出した。

課題

- ・総合的な探究の時間や「くまの学彩」でのテーマの精選と指導方法。本校独自の教材作り。評価方法の検討。
- ・担当教職員とコーディネーターが役割分担しながら、取組を教職員全体に広げ、関連機関との連携をより強めていく。



【和歌山県立串本古座高等学校】地域社会学科（令和6年度設置予定）

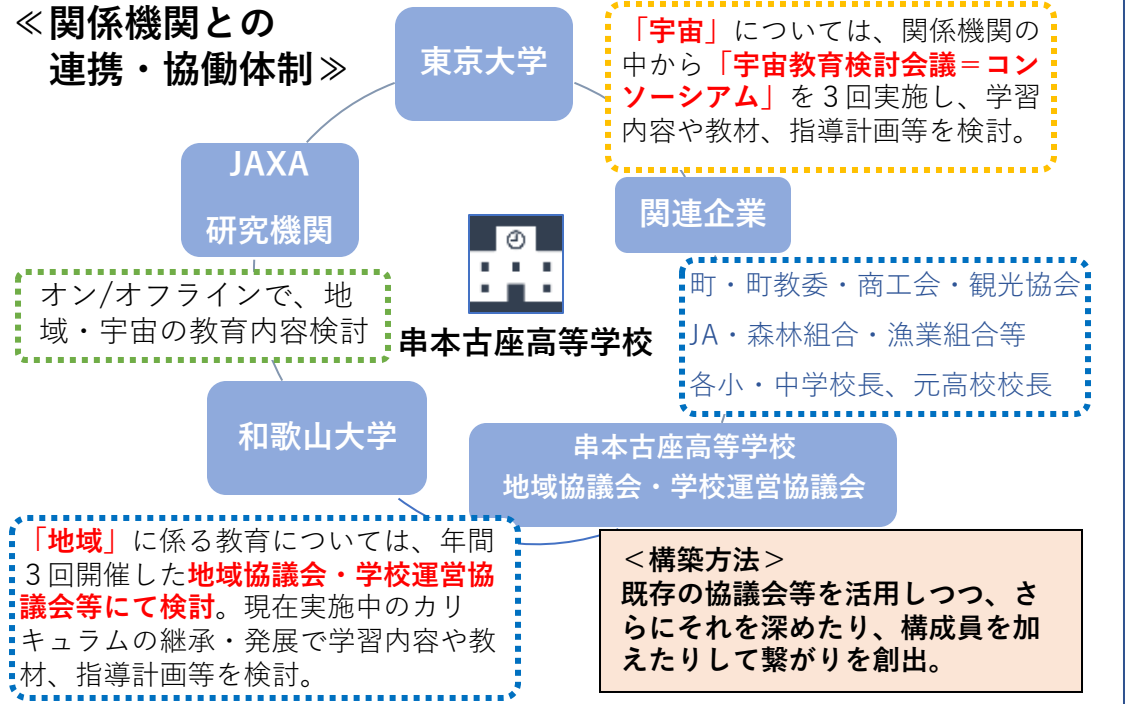
《設置の目的》

清流古座川、ラムサール条約登録地である沿岸海域のサンゴ群落、世界遺産として登録された紀伊山地の霊場と参詣道、南紀熊野ジオパーク、民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」、1890年のエルトゥール号遭難事件以来のトルコとの交流など、**地域の多様な教育資源を活用**し、自らの在り方・生き方と向き合い、確固たる**世界観や価値観、変化に柔軟に対応**していく力、**将来への展望**等を併せもつ、**Society 5.0を生き抜くために必要な力**を育成するため。

《特色・魅力ある教育の概要》

地域社会学科の中に「**宇宙探究コース**」「**文理探究コース**」「**地域探究コース**」の3つのコースと「宇宙・地域」という学校設定教科を併せ持つ**新たな普通科**を設置する。

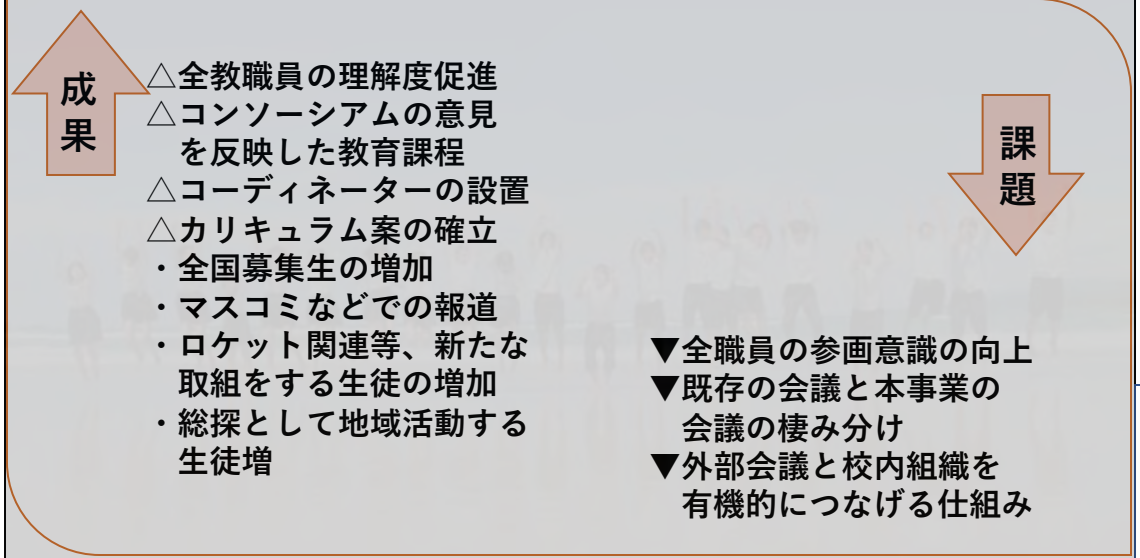
《関係機関との連携・協働体制》



《令和4年度の主な目標と取組状況》

- **新たな普通科設置（コース）の検討**
  - ▶ 校内での全職員での検討（3回）
- **新たな普通科のカリキュラム検討**
  - ▶ カリキュラム委員会・各教科で検討
- **新たな普通科に係る会議の設定**
  - ▶ コンソーシアム（3回）開催
- **コーディネーター設置**
  - ▶ 10月にコーディネーター配置

《成果と課題》



# 【和歌山県立橋本高等学校】学際領域学科（仮称）

## 研究開発の背景

本校は長年、地域を担う人材の育成を目指し、ユネスコスクールやコミュニティスクールとしての活動などに積極的に取り組んできた。また、オーストラリアやカナダへの短期海外研修や中華人民共和国の姉妹校との相互訪問といった国際交流活動も実施してきた。ここ数年来、県外の私立中高一貫校、私立高校への進学者が増加すると同時に少子化が進行し続ける状況下において、地域の担い手としてだけでなく、地域から日本、さらには世界に羽ばたき、SDGsの実現などの様々な社会課題に立ち向かい、活躍できる人材の育成が求められている。

## 目的

変化する社会の課題に対応し、自己有用感を持ち社会貢献できる人材を育成する。

## 教育の概要

変わりゆく社会において活躍できるグローバル人材を育成する。そのために必要なコミュニケーション能力を高めるため、日本各地、また世界各国の社会人や高校生など、自分たちとは違う立場や環境にある人々と課題研究について討議することで、多角的視点からの考察に基づく発表を実践する。

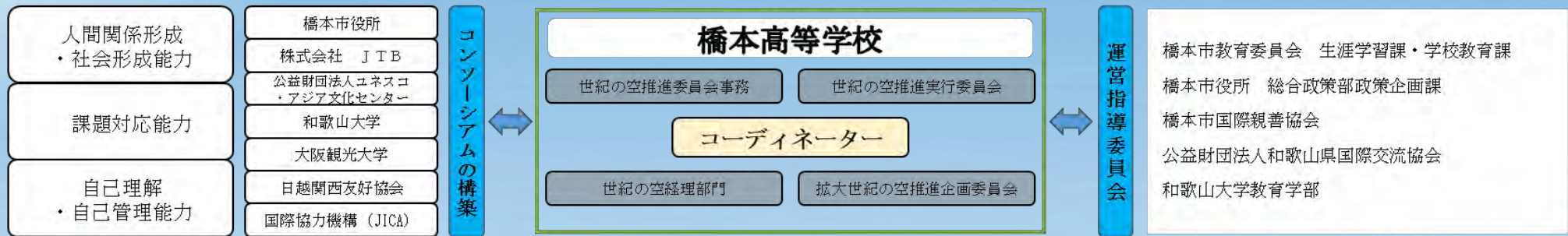
## 育む力

人間関係形成  
・社会形成能力

課題対応能力

自己理解  
・自己管理能力

## 研究開発の実施体制



活動時期	活動実績	
	1 学年	2 学年
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産訪問</li> <li>県人会との国際交流 講演</li> <li>県人会との国際交流 オンライン交流</li> <li>大阪観光大学 留学生との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育講演会</li> <li>平和学習講演会</li> <li>企業訪問</li> <li>プレゼンテーション講演会</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋本市役所への提案 クラス内発表</li> <li>テーマ別発表の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 探究 AWARDS 応募</li> <li>SDGs クラス内発表</li> <li>SDGs 探究活動の振り返り</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋本市役所への提案 学年内発表</li> <li>海外発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 校内討議</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋本市役所への提案 校内発表</li> <li>橋本市役所への提案 市長プレゼンテーション</li> <li>橋本市役所への提案 英語で発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 校内発表</li> <li>校外高校生との オンライン討論</li> <li>海外高校生との オンライン討論</li> </ul>

## 令和4年度の目標

多様な価値観との出会いと  
自らの考察の深化

他者を意識した  
プレゼンテーション作成と  
発表能力の向上

複合的視点における  
課題解決方法の模索・発信

## 成果と課題

**【成果】**

- 留学生や多様な経験をもつ国内外の社会人との交流をすることができた。
- 探究活動の基本的なスキルを習得することができた。
- 多角的視点の獲得のための講演聴講を実施した。
- 考えを深め、学習効果向上につながる世界遺産訪問や企業訪問を実施した。
- 高校1年生は世界遺産の価値や魅力、高校2年生はSDGsを念頭に置いた取り組みについて、それぞれ現地学習を実施することで、理解を深めることができた。
- コンソーシアムや地域等と連携した取り組みや交流学习を実施することで、多様な価値観や習慣に触れ、異文化に対する理解を深めることができた。

**【課題】**

- 講演会・現地学習の時期・内容の見直し、事前・事後の学習時間の確保と内容の充実。
- 高等教育機関、研究機関などの外部機関との連携強化。
- 総合的な探究の時間や各教科等と本事業を相互に関連付けたカリキュラム・マネジメントの充実。
- 多角的、複合的視点からの考察に基づく課題発表の実践力強化。
- 留学生や国内外の高校生との意見交流、討議の促進。



【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和4年度））

設置の目的

離島に位置する申請校および隠岐島前地域の育てたい人材像である「グローバル人材」の育成に向けて、これまでよりもさらにグローバルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備するため。

特色・魅力ある教育

「島まるごと学校」をコンセプトに約15年間地域をフィールドに海外の視点も入れながら、地域課題解決型・価値創造型の探究学習を推進し、地域内だけでなく、全国・海外から集まる生徒の多様な興味関心や価値観で切磋琢磨しながら学ぶ土壌がある。



関係機関との連携・協働体制の構築



学校経営会議  
（本事業を学校経営に位置付ける）



新学科設置準備チーム  
（教員・コーディネーター）



推進協議会（コンソーシアム会議）  
（進捗について地域の方とも共有）



運営「共創」委員会  
（外部有識者とカリキュラム共創）

令和4年度の目標・取り組み状況

- 4月 コーディネーター設置  
学校経営推進会議・新学科設置準備チーム始動
- 5月 第1回推進協議会（コンソーシアム会議）
- 6月 地域内中学校への新学科を含む高校説明会
- 7月 第2回推進協議会（コンソーシアム会議）  
第1回・第2回オープンスクール  
第1回運営指導（共創）委員会
- 10月 第3回オープンスクール  
第1回魅力化の会（コンソーシアム理事会）
- 11月 第3回推進協議会（コンソーシアム会議）
- 1月 第3回推進協議会（コンソーシアム会議）  
第2回魅力化の会（コンソーシアム理事会）
- 3月 第4回推進協議会（コンソーシアム会議）  
第3回魅力化の会（コンソーシアム理事会）  
第2回運営指導（共創）委員会

学年	学科	人数	割合
1	新学科	10	100%
2	新学科	10	100%
3	新学科	10	100%
4	新学科	10	100%
5	新学科	10	100%
6	新学科	10	100%
7	新学科	10	100%
8	新学科	10	100%
9	新学科	10	100%
10	新学科	10	100%
11	新学科	10	100%
12	新学科	10	100%

年間の学科説明計画

成果と課題

【成果】学科の対象となる1年生の夢探究（総合的な探究の時間）の改訂と実践を行なった。また、右図のように、新学科2年間のカリキュラムを策定した。

【課題】今年度行った1年夢探究や学科説明の改善が必要。また、地域内外へのPRも、実際に来年度生徒の活動事例を踏まえて、PR内容も改善していく。

学年	科目	単元	時間
1	新学科	夢探究	10
2	新学科	夢探究	10
3	新学科	夢探究	10
4	新学科	夢探究	10
5	新学科	夢探究	10
6	新学科	夢探究	10
7	新学科	夢探究	10
8	新学科	夢探究	10
9	新学科	夢探究	10
10	新学科	夢探究	10
11	新学科	夢探究	10
12	新学科	夢探究	10

2年間のカリキュラム

【愛媛県立三崎高等学校】地域社会学科（仮称）（令和6年度設置予定）

【目的】

- ・ **変化の激しい社会を**  
たくましく生き抜くことができる人材の育成
- ・ **地域社会とつながる人材の育成**
- ・ **地域社会学を教育課程に位置付けた**  
STEAM教育・キャリア教育の推進

【特色・魅力ある教育の概要】

- ・ **みさこうSTEAM教育** ・ **地域社会とつながる授業**
- ・ **みさこうせんたんプロジェクト**

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

- （運営指導委員会）
  - ・ 三崎高校における本事業の運営に関し、専門的見地から指導・助言・評価等を実施
- （県教育委員会）
  - ・ 地域魅力化コーディネーターの配置
  - ・ コンソーシアムへの参画
  - ・ 「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」など、県が実施している事業への参加に係る支援

【令和4年度の目標】

- ・ 地域魅力化コーディネーターとの連携
- ・ 「地域特別講師データベース」の作成
- ・ 「教科等横断型授業」の実施
- ・ 社会とつながる教育課程の編成
- ・ 新学科設置に向けた広報活動の準備



【成果】

- ・ 地域魅力化コーディネーターの配置による、事業推進体制の強化及び教職員の負担軽減
- ・ 地域特別講師データベースに現在**約60名を登録**
- ・ 地域特別講師データベースの活用による、**地域探究活動や教科等横断型授業等の講師の充実**
- ・ 授業時間数を週33単位から**29単位**に変更するとともに、**「地域系」「人文系」「科学系」（仮称）の3コースに改編**

○学校と地域の連携強化 ○生徒の主体性を尊重した教育課程の編成

【課題】

- ・ 新学科設置に向けた教職員・地域の意識統一
- ・ 地域探究活動や地域イベント等のスケジュールの管理・調整
- ・ 全国から入学してきた生徒たちとの高校卒業後の連携
- ・ オンラインによる三崎高校支援組織の構築

○オンラインの更なる活用 ○仮説の設定と検証

【取組状況】

- ・ 地域魅力化コーディネーターが校内に常駐し、マネージャー的な役割を担い、**学校と地域をコーディネート**
- ・ 地域特別講師データベースを立ち上げ、登録者を募集
- ・ 「現代の国語」×「相互的な探究の時間」の授業や、校内の研究授業として「数学」×「地学」の授業を実施
- ・ 新学科にふさわしい**新しい教育課程**を編成
- ・ 「みさこうゼミ」などの新しい取組の実践
- ・ 広報活動を令和5年4月にスタートできるよう、先進校を視察し、広報活動等について研究

【新しい取組の計画】

- ・ 「みさこうゼミ」…放課後等の時間に外部人材を講師として、**生徒の興味・関心に合わせた、より自走性の高い探究活動**を行う。
- ・ 「イベントスケジュールワークショップ」  
…生徒、地域関係者が協働して**地域イベントのスケジュールリング、内容のブラッシュアップ**を行う。
- ・ 「jobフェアinみさこう」…本校2年生及び伊方町出身の大学2年生を対象とした**伊方町・八幡浜市の企業による合同企業説明会**



## 【高知県立清水高等学校】学際領域学科（令和6年度）

## 清水高校の学際的学び「ジョン万次郎×SDGs」

「SDGsについて」、をジョン万次郎の生き方や考え方と重ね合わせながら探究する。また、小中高が一貫して取り組むことができるような系統的なカリキュラムを開発する。

## 目指す人物像

## 21世紀のジョン万次郎

- ①自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、横断的に学び、専門性にとらわれない柔軟な思考を身に付けている。
- ②課題や目的を自ら設定し、国際的な視野で問題を解決しようとする態度を身に付けている
- ③多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を身に付けている

## 令和4年度の目標

- ①特定の分野に偏らない学びを実現させるため、文理融合した教科横断的なカリキュラムを開発する。
- ②最先端の科学を学ぶため、自然科学・社会科学・人文科学等の分野について、大学、研究機関、官公庁、民間企業等と連携する。
- ③国際的な視野を身に付けさせるため英語教育を充実し、国際交流を促進する。
- ④コンソーシアムと連携し、学校内外が一体化した教育活動を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現する。



「物理と美術による教科等横断的な実践」  
生徒の興味や関心に基づく教科等横断の視点での実践事例。



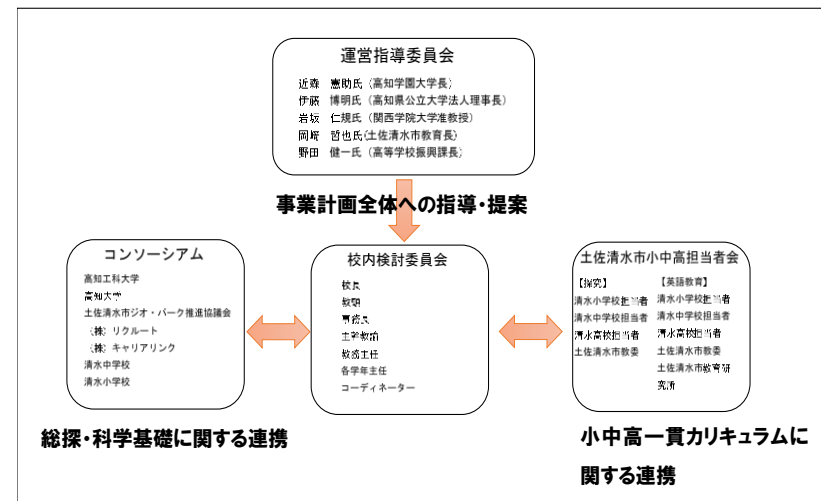
「SDGsに関する探究的な実践」  
SDGsの実践について外部機関と連携し、知識を得ることで、自分の考えを構築する実践事例。



「グローバル人材育成を目指した実践」  
海外の交流校とのオンライン交流を通じて、実践的な英語力を身に付け、国際的な視野を育成する実践。

## 推進体制

運営指導委員会からの助言等を校内検討委員会において具体的に取組案として策定し、コンソーシアム及び小中高担当者会で実践例に係る協議を行い、実践する。



## 成果

- ①物理と美術の授業において、教科等横断的な視点で授業実践を行い、中学生との交流授業や個人探究につなげることができた。
- ②運営指導委員会等からの助言により、教育計画全体を見直すことができた。
- ③オンラインを効果的に活用することで、海外の高校等との交流の機会を設けることができた。

## 課題

- ①教科等横断的な視点での実践事例について、身に付けさせたい資質・能力を明確にしたうえで、計画的に取り組み、実践事例を蓄積する必要がある。
- ②大学等との連携の機会が不十分であり、コーディネーターを中心とした連携体制を再考する必要がある。
- ③地域や保護者等に対する発信の機会が少なく、目的や取組等の理解が十分に進んでいない。

【福岡県立八幡高等学校】学際領域学科（設置（令和6年度））

学際領域学科設置の目的

持続可能な社会をしなやかに根気強く創ろうとする人材の育成

新たな知を生み出す柔軟な創造力

知の統合

自然科学系

人文社会学系

架橋

特色・魅力ある教育の概要

学校設定教科  
「知の統合」  
教科科目横断型授業

複数の教科科目を融合

- ・ 学問と社会の繋がりの実感
- ・ 学問の意義の感得
- ・ 多角的な視点・思考の獲得
- ・ 知識から知恵の創造
- ・ 高度な思考力・判断力・表現力の育成

ボーダレスな課題を  
分析し真理を  
見極める視線

SDGsの達成に向けて

- ・ 課題探究的な学習
- ・ 計画に基づく実践行動
- ・ 成果発表会とコンテストへの参加
- ・ 主体的な行動力と旺盛な学びに向かう力の育成

総合的な探究の時間  
「夢現プロジェクト」

往還・相乗効果

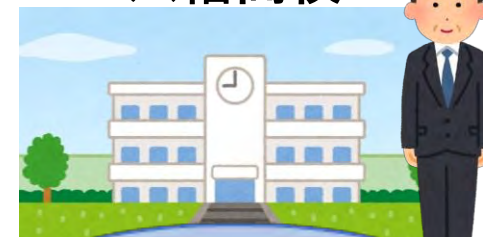
関連機関との連携・協働体制の構築方法

運営指導委員会

指導・助言

コンソーシアム

八幡高校



コーディネーター

企業・高等  
教育機関

- ・ SDGsの目標達成に向けた指導助言
- ・ 学際的学びに関する指導助言

行政機関  
教育委員会

- ・ 社会の実態の情報提供
- ・ 政治行政的知見の深化
- ・ カリキュラム編成の指導助言

国際機関

- ・ 国際活動を行っている団体による情報提供と専門的知見の深化

地域

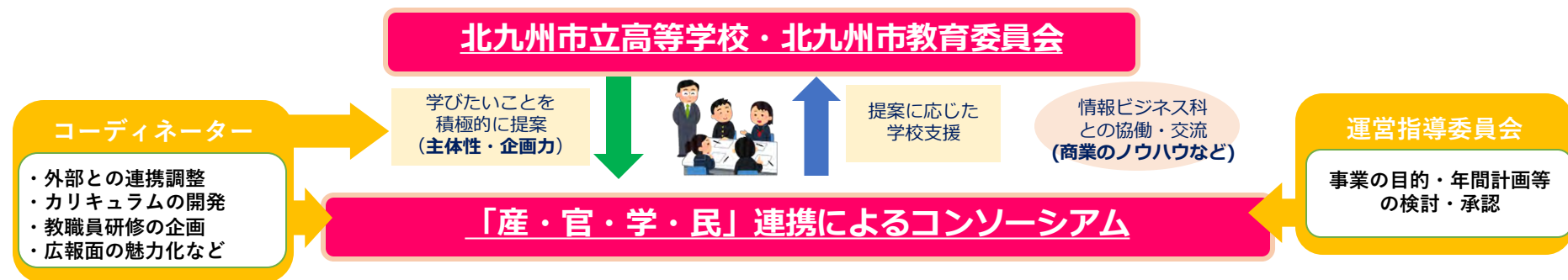
- ・ 夢現プロジェクトを介した学校と地域との連携



# 【北九州市立高等学校】 地域社会に関する学科「未来共創科」（令和6年度設置予定）

## 新学科設置の目的

生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら  
**共に未来を創造**する学びを通して「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すとともに  
 総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な**表現力・発信力の育成**も目指す



## 令和4年度の目標

### 【对学校外】

- 産官学民とのつながりづくり
- ソトと連携・協働する体制構築
- 資源開拓・連携先探し

### 【对教職員】

- 教職員との共通理解（魅力向上の必要性、探求的な学びの重要性など）

### 【对市民・ステークホルダー】

- 魅力向上事業の周知
- ステークホルダーのニーズ把握

## 取組状況

- ✓ 学則改正（新学科設置、定員変更）
- ✓ スクール・ミッションの策定
- ✓ コンソーシアム及び運営指導委員会の設置
- ✓ コーディネーターの配置（2名）
- ✓ 民間人校長の採用（R4.10～副校長、R5.4～校長（4年間））
- ✓ 魅力向上に向けた校内の体制づくり
- ✓ 「北九州市立高等学校の魅力向上プラン」の策定・公表
- ✓ 高校魅力化評価システムの実施
- ✓ ステークホルダーへのアンケート調査

## 成果と課題

（○：成果、●：課題（R5への持ち越し））

- 関わってくれる教職員の増加
- 外部との連携・協働体制の構築（市高を応援してくれる多くの方の存在に気づくことができた）
- 市高の存在感が大きくなっていったこと（市教委内のみならず、市全体として）
- カリキュラム案づくりに着手
- 生徒や保護者、地域などと連携・協働した具体的な取組までは着手できなかったこと
- カリキュラム案のプレ実施にまで至らなかったこと
- スクール・ポリシーの策定はR5年度へ

【長崎県立松浦高等学校】 地域科学科（地域社会学科）（令和4年度設置）

目的

地域社会の未来を担うリーダーの育成  
～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

目標

- Ⅰ 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- Ⅱ 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- Ⅲ 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

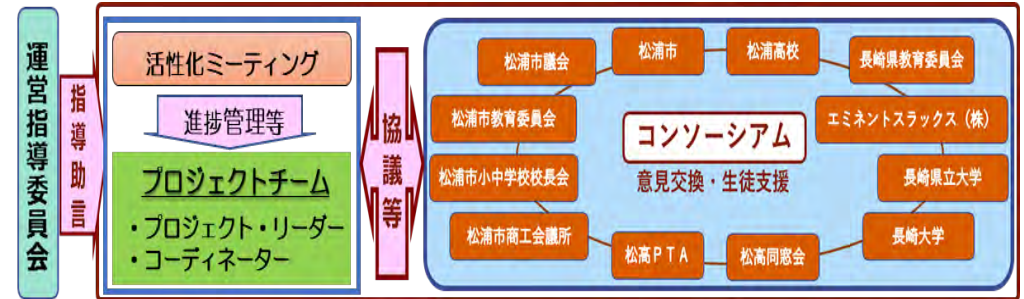
特色・魅力ある教育の概要

地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む

（研究テーマ例）

- 民話を活用し地域活性化～カッパの頭と松浦の経済に潤いを～
- 農業支援～長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる～
- 廃校を活用して自然の家にする～松浦あじおぶる自然学園～

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和4年度の目標

実施内容（取組状況）

令和4年度の成果（○）

令和4年度の課題（●）

計画Ⅰ

各教育活動  
ループリック  
評価規準作  
成・実践・  
改善

- グループごとに課題設定を行い、課題研究構想発表会において発表した
- ループリックを作成し、各教育活動の振り返りの際に自己評価を行った
- 「松高ポートフォリオ」を用いて、各教育活動の振り返りを行った

- ループリック、「松高ポートフォリオ」を用いた評価により各教育活動の振り返りを行うことで、自らの学びの内容や深まりについての検証・改善ができた

- 生徒にとってわかりやすく、他者からの評価も取り入れやすいループリックへの改善を図る
- 生徒が設定するテーマが、過去の実践テーマに引きずられる傾向が強い

計画Ⅱ

中高・高大職連  
携の推進とその  
効果等の検証に  
基づく連携体制  
の在り方を含む  
改善

- 中学校社会科の中高合同授業に本校1年生が参画した
- 商工会議所青年部が主催するイベントに生徒会役員が企画から参画した
- 地域科学科生徒が、大学生の卒業論文発表会へ参加した

- コンソーシアム構成員との協働による実践活動の充実を図ることができた
- 校外での活動の機会を増やしフィールドワーク等による地域との交流の機会が増えた

- 生徒の研究と地域のリソースとのマッチングが不十分である
- 課題解決に必要なデータの収集・活用・分析力の育成が不十分である
- 中高教員間の情報共有を増やす

計画Ⅲ

「地域高校」  
ネットワーク  
の構築・交流  
開始

- 県内県立高校9校とのネットワーク構築を行い、教員研修を実施した
- 立命館宇治中学・高等学校のWWLコンソーシアムに加盟できた
- 宮崎県立飯野高校主催の全国グローバルリーダーズサミットに生徒が参加した

- 「地域高校」との研修を通じて、学校の魅力や探究活動等の情報共有ができた
- 生徒のキャリア意識の高揚を図ることができた

- 情報共後の担当者間での振り返りの時間が不足していた
- 参加各校の取組内容に踏み込んだ情報共有と意見交換の時間設定が不十分である



# 【宮崎県立飯野高等学校】地域社会学科（設置（令和 年度））

## 地域社会学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

本校が所在する宮崎県えびの市でも地域社会で直面する様々な課題の解決を図るため、地域と学校が協働して新時代の人材を育成を図る取り組みを強化することが必須である。グローバルな複眼の視点で地域課題を俯瞰・分析し解決に向けてアクションを起こす人材を育成するため、創造的なカリキュラム開発により以下を実現する学科の設置を目指す。

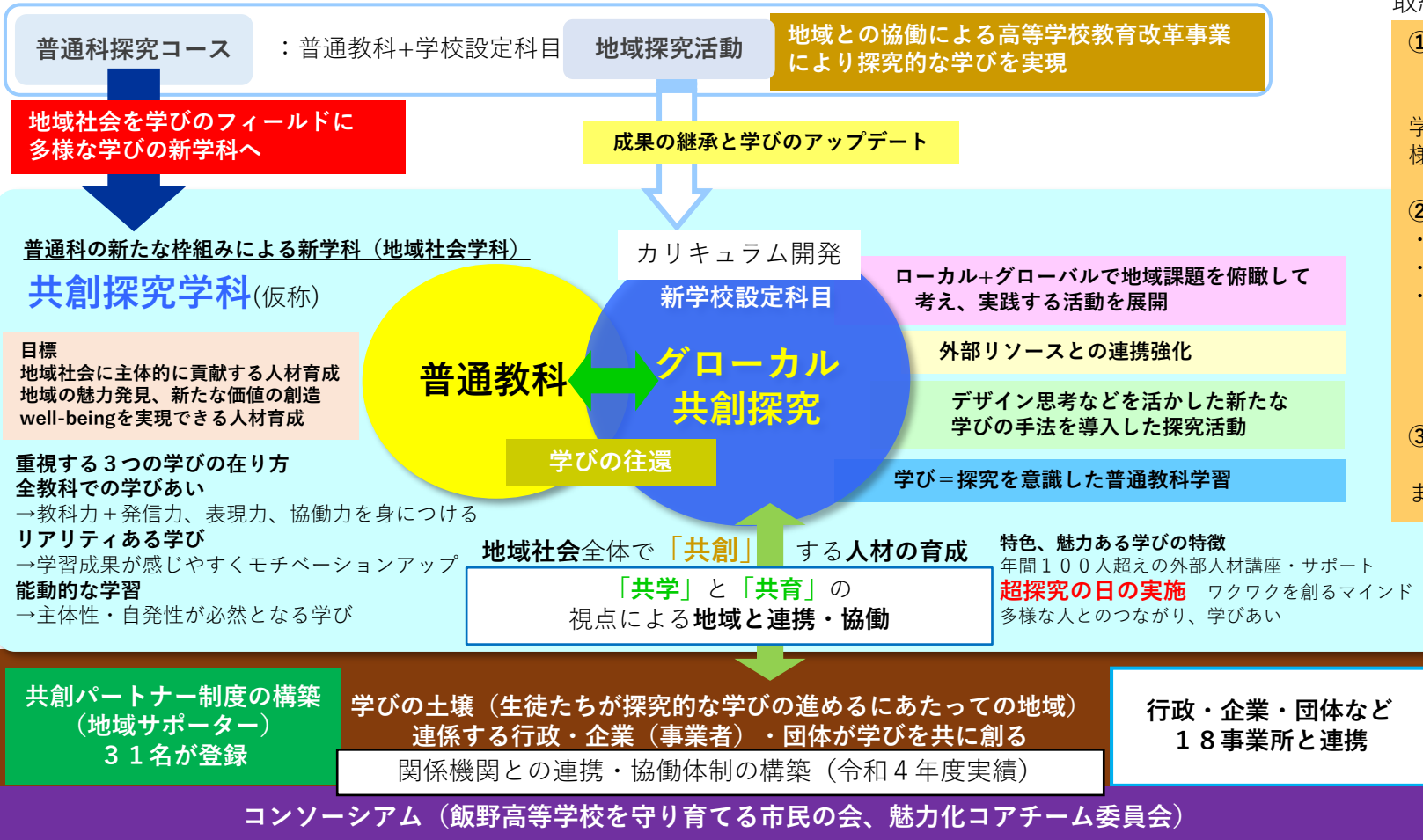
- ①次世代に必要な力を地域と共有する学びへの転換
- ②画一的な普通科の在り方を見直し、共学・共有により教育マインドを転換
- ③地域社会の様々な分野におけるリーダーを育成する地域創生の拠点を形成

## 令和4年度の目標

- ・新学科の名称、コンセプト、目標等の策定
- ・学校設定科目のカリキュラム開発
- ・コーディネーター配置
- ※多様な学び事例の視察・検証

## 取組状況

- ①視察・研修  
宮崎県、京都府、北海道3校を視察訪問  
「先生が教える」学校から「生徒が学ぶ」学校への転換に向けて教科、総合探究問わず様々な取り組みが行われていた。
- ②カリキュラム開発/新学科コンセプトづくり  
・連携企業との協議・意見交換 4社  
・連携機関・団体との意見交換・協議 7団体  
・実践および検証  
(カリキュラム内容の検討、プロジェクト実践における研究、評価の在り方について素案作成・検証)
- ③視察受入・事業の普及  
15の高校・団体の視察研修を受け入れ。また、7つの研修会で取り組みの事例紹介。
- ④コーディネーターの配置  
校内に探究支援やカリキュラム開発、地域連携などに携わる魅力化推進コーディネーターを配置。
- ⑤運営指導委員会  
魅力化コアチーム委員会の実施  
新たな学科、新科目配置に向けて課題をどのようにカリキュラムに落とし込んでいくか意見や助言をえた。



## 成果と課題

成果…カリキュラム開発を軸に関係機関との連携・協働、新たなプログラムなどを実践を通して研究開発を進めることができた。また、本校初となるコーディネーターの配置など今後の事業推進にも寄与する体制づくりができた。また、教科と探究の接続や学びの在り方について職員全体の研修を実践し共通理解を図ることができた。  
課題…新学科、新科目の配置に向けての具体的な内容・体制づくりの次年度完成に向けてより細かな部分を構築していく必要がある。

【熊本市立必由館高等学校】地域社会学科（令和6年度設置予定）

**教育理念：自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校を目指す**

**革新的な教育活動の実践**

《育成する資質・能力》

- I 多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- II 社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- III 分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- IV 自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力



《特色・魅力ある先進的な教育の取組》

①少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組み

多様な生徒へのきめ細かな指導、支援を実現1クラス30人または35人の少人数によるクラスを編制(令和6年度入学生から)。生徒が主体的・協働的に学ぶことのできる授業づくり

②「学校設定科目 必由学」の新設

持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育み、「Well-being」としての社会情緒的能力などを醸成

③熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実

市役所の全面的な協力体制のもと、市立ならではの教科等横断的・探究的学習

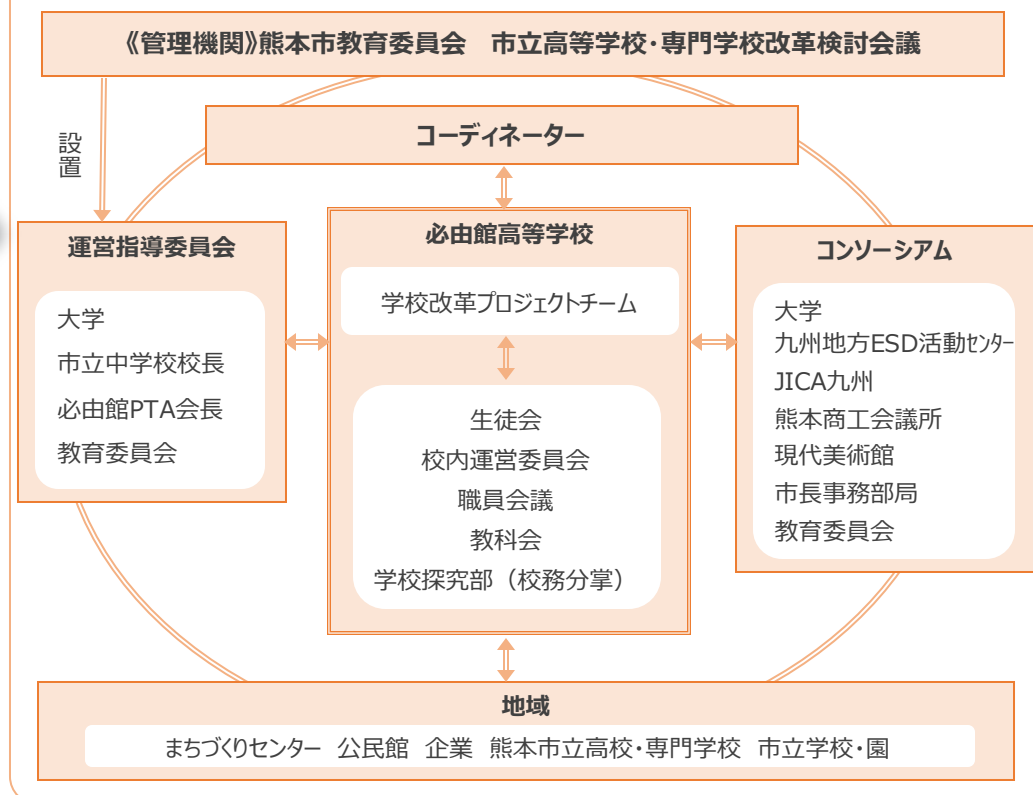
④探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成

ICTを活用することにより、課題解決に向けデータを科学的に分析・検証し、表現する力を育成

⑤生徒・教師が主体的に学校づくりに参画する Agency School

生徒が授業づくりや校則の策定・見直しなど、生徒が学校創生に参画教育実践及び教育的効果を積極的に国内外に還元するとともに、自らの学びは自らが創る Agency School

**熊本市教育エコシステム**



**令和4年度の目標**

職員研修・生徒研修の充実

学校設定教科設置に向けた探究的学習の充実

外部機関との連携体制の構築

教育課程の開発研究

先進校等に学ぶ

生徒の資質・能力の測定

**令和4年度の取組と課題**

県内外から有識者を招き職員および生徒に向け講義、実践実習を実施した。またKumamoto Education Weekでの発表、観光庁 未来の観光人材育成事業 成果報告会に参加し研究の外部への積極的な発信を行った。さらに、市役所との連携し高校生が社会の一員として地域（熊本市）の課題を自分事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながら、解決していくための資質能力を育むための活動に取り組んだ。日常生活の様々なところに課題があることを知り、今後の探究学習に役立てていく。

運営指導委員会とコンソーシアムを2回開催。これからの10年を見据えた魅力ある学校（自らの学びは自ら作るAgency School）を目指し、必由館等学校の現状、課題を踏まえ課題解決に向けた取組を協議した。校内プロジェクトチームで協議を行っており、教育課程を具現化に向けて引き続き検討を進めていく。

先進的な取組も数多く取り入れている高等学校や教育委員会への視察訪問を通し各機関の様々な取組やその取組の中にある課題を学んだ。今後、必由館高等学校の探究活動や地域連携のあり方また学科改編に向けた取組について参考としていく。

「AI Grow」による調査は12月から1月にかけて1回のみ実施となり、生徒のコンピテンシーについて現状を把握するに留まった。来年度は年度当初と年度末に少なくとも2回は調査を実施し、2点観測によるデータの比較から生徒個人及び学校全体としてのコンピテンシーの変容を分析と、その伸長につなげる。